学校だより　西北歳時記

長崎市立西北小学校　　校長　　立本　祐輔

ＮＯ．７　　令和３年１２月２日　　発行

美しい学校
ゆめもつ子
やさしい子
あらわす子

２学期のゴールに向かって・・・

一雨ごとに、冬が近づいているのを感じます。

師走に入り、２学期のゴールを目指して、各学年まとめの学習を頑張っています。持久走記録会も始まり、２学期の行事も無事に終了することができそうです。

ところで、２学期の始業式のときに、１年間を陸上のトラックに例えて、２学期はバックストレートから第４コーナーまでを走る長い距離であることを話しました。あわせて、イソップ童話の「アリとキリギリス」を紹介して、冬がやってくる頃には自分は「アリ」になっているか「キリギリス」になっているのか、毎日の頑張りが大切であることも話しました。２学期も残り３週間、ゴールを目指して最後まで頑張ってほしいと思います。

第２回　全校句会

昨日、第２回全校句会を行いました。全学年とも力作ぞろいの中、見事に入賞した作品を紹介します。

先生特別賞	優秀賞	西北俳句大賞	優秀賞	優秀賞	優秀賞
運動会笛の合図でもみじまう	金色のかみさまやどるいちょうの葉	下見れば赤いもみじのみずたまり	どんぐりのいろんなぼうしかわいいね	秋の空いつもは見えない星一つ	いちょうのねダンスパーティーはじまった
五年	三年	四年	一年	六年	二年

人権週間に寄せて

１２月４日から１０日までは「人権週間」です。

「人権週間」は世界共通で、今年で７３回目になります。「人権週間」を簡単に言えば、私たち一人ひとりが、人として大切にされているかを、いつもより気にして過ごす１週間ということになります。

人は、生まれながらに誰もが自由・平等で、全ての人間が大切な存在として扱われなければなりません。だから、誰が偉くて、誰が偉くないとか、何かができるから偉くて、何かができないから偉くないなどと、人を差別するのは許されないことです。

この方を紹介します。マザーテレサです。知っている人もたくさんいると思います。

マザーテレサは、インドの貧しい人のために生涯をささげた方です。１８歳で修道院という、教会の中で神様のお世話をする施設に入りました。そこに入ると、家族や友達とも会えなくなるし、結婚もできません。それでも、マザーテレサはその道を選びました。そして、３７歳まで修道会の学校で、先生として子どもたちを教えていました。

マザーテレサは、４０歳のときに神様のお告げを聞いて、スラムという、とても貧しい人たちが暮らしているところに入り、食べ物がなく飢えている人、着る物がなく裸でいる人、住む家がなく路上で生活している人、体が不自由でも病院に行けない人、誰からも世話をされない人たちのために、一生懸命働きました。マザーテレサの活動は、多くの人からの共感を呼び、支援も集まるようになりました。そして、全世界にマザーテレサの活動が知られるようになり、６９歳のときにノーベル平和賞を受賞しました。そのときにもらった賞金は、すべて貧しい人たちのために使ったそうです。

マザーテレサは、多くの言葉を残しています。

「愛とは、大きな愛情をもって小さなことをすることです。」

「今日よい行いをしても、次の日には忘れられるでしょう。それでもよい行いを続けなさい。」

「強い愛は、分け隔てをせず、ただ与えるものです。」

「いつも笑顔で会うことにしましょう。笑顔は愛の始まりですから。」

マザーテレサは、大きな愛をもって数多くの人を救った方です。マザーテレサが８７歳で亡くなった後、ローマ教皇は、『聖女』という称号を与えました。

ところで、マザーテレサは、**「愛」に対する反対の言葉は「無関心」**であると言っています。自分のまわりにいる友達が困っていたり、いじわるをされていたり、いつもより元気がない様子だったりしたときに、「どうしたの?」と、声を掛けることができる人がたくさんの「愛」をもっている人なのかもしれません。

私たちも、相手の気持ちに気付くこと、友達の痛みに気付くことから行動を始めることが大切だと思います。